



# 公立芽室病院 だより 第111号

ホームページアドレス  
http://memuro.com  
または芽室町ホームページのトップ  
ページからアクセスできます。

## めむろ☆育児サークル 「はぐ Hug」 ご案内



- 妊娠中の方、子育て中の方、そのご家族などなたでも参加OK
  - 助産師・保育士も毎回参加しています。妊娠中から出産後の疑問、不安なこと気軽に何でもきくことができます。
  - 場 所：公立芽室病院 3階研修室
  - 日 時：毎月第1・第3水曜日(10時30分～11時30分)
  - 参加費：100円
  - 予定しているテーマ
- 12月16日(水) 骨盤の話(トコちゃんベルト体験会)  
骨盤の歪み、実は妊娠前から整えることが大切！もちろん産後も大切な骨盤の話。助産師さんのお話とトコちゃんベルトの体験をします。
- 1月6日(水) ママカフェ「うまれるはなし」  
お腹の赤ちゃんの成長を子どもと一緒に感じてみましょう。スタッフによるお産劇あり！！(必見)
- 1月20日(水) おっぱいの話  
おっぱいの悩み、トラブル、その他いろいろ助産師さんがお答えします。
- 2月3日(水) 「Mamacyu」わらべうたベビーマッサージ  
わらべうたベビーマッサージユニット「Mamacyu」さんをお招きして、わらべうたベビーマッサージを体験します。
- 2月17日(水) 子どもの発達を助ける関わり方

## 出前講義はいかがですか？

公立芽室病院では、医師や職員による「出前講義」を行っています。町内会、サークル、小グループ等を対象として30分から1時間30分くらいの時間で実施できます。テーマや講義に関する質問・意見交換も歓迎します。ぜひお気軽にお問い合わせください。

■問い合わせ ☎0155-62-2811

### 講義のテーマ(一例です)

- ★ 下肢静脈瘤の最新治療
- ★ ピロリ菌検診(小児科)
- ★ 乳がんのお話
- ★ 初めての禁煙
- ★ 糖尿病による目の病気
- ★ 白内障って何？
- ★ 大腸がんの診断と治療
- ★ 風雪歯科物語

## 年末年始の外来診療案内

年末年始の12月31日(木)から1月5日(火)の間、外来診療を休診します。救急診療は行っていますので、救急の際はお申し出ください。

また、夜間・休日に救急診療を受ける場合は預り金を申し受けております。

健康保険証の提示があった場合 5,000円

健康保険証の提示がなかった場合 10,000円

預り金は通常の診療日に、診療費が確定した際に精算させていただきます。

12月30日 (水)	31日 (木)	1月1日 (金)	2日 (土)	3日 (日)	4日 (月)	5日 (火)	6日 (水)
通常診療	休診	休診	休診	休診	休診	休診	通常診療

## 講演会テーマ

赤ちゃんにやさしい病院(BFH)講演会2015

## 赤ちゃんにやさしい病院(BFH)としての取り組みの実際 ～母と子の絆を深めるために～

講師：服部 哲夫 公立芽室病院小児科診療部長



10月17日 保健センターあいあい21で行われた母乳育児講演会についてお伝えします。赤ちゃんにやさしい病院(BFH)は全国で72施設が認定されていて、当院は認定を受けて9年目となりました。今回は当院小児科診療部長 服部哲夫先生にご講演していただきました。服部先生の経験を踏まえた体験談はユーモアたっぷりで、赤ちゃんへの優しさが伝わるお話でした。

## 母と子の絆 = 愛着形成について

カンガルーケアという言葉聞いたことがある方もいると思います。1979年コロンビアの産科病院で始まったもので、赤ちゃんの医療が危機的だった時代に、お母さんの胸に肌と肌を合わせるように赤ちゃんを抱っこする。このカンガルーケアが、劇的に赤ちゃんの死亡率を減少させ、育児放棄数も減少させることができたのです。

1990年から10年間札幌の天使病院に勤務して、早産で生まれた小さな赤ちゃんを沢山みてきました。そのなかで、お母さんがカンガルーケアをすることによって、点滴や薬では得られない効果が認められました。

お母さんからは「赤ちゃんを身近に感じた」「母になれた、自分の子と思えた」などの感想があり、赤ちゃんを抱くと言うことが、母と子の愛着形成につながることを実感しました。

当院でも、BFH 認定以前より正常に生まれた赤ちゃんを裸のまま、お母さんの胸に抱っこしてもらってカンガルーケアを行っています。現在は早期母子皮膚接触(STS=skin to skin)と呼ばれています。

このお母さんと赤ちゃんの接触によって、母親の愛着行動が増え赤ちゃんとの絆づくりも促すことができます。

さらに赤ちゃんの呼吸や体温が安定したり、お母さんの持っている正常細菌叢が赤ちゃんに定着して感染を防ぐことにもつながります。当院では赤ちゃんの状態に問題ないことを確認したうえで、スタッフが必ず見守って分娩台の上で1時間行っています。その間におっぱいも飲みますので、お母さんは瞬く間に母親の表情へと変わっていきます。

赤ちゃんは生後3か月にならないと目の焦点は合いませんが、お母さんが抱っこしておっぱいを飲ませているその距離は、赤ちゃんが一番見える距離なのです。目と目を合わせて話しかけながら、おっぱいを飲ませることによって赤ちゃんはお母さんを認識し、お互いの思いが伝わり愛情を強めることにつながります。

当院は平成18年に「赤ちゃんにやさしい病院」の認定を受けました。WHO(世界保健機構)ユニセフ(国際児童基金)による「母乳育児成功のための10か条」を実践しています。お母さんと赤ちゃんにやさしく、育児のスタートをお手伝いしていきたいと思っています。お母さん、家族ともに自然に子育てをしたくなるような地域社会をめざして活動の場を広げていきたいと思っています。

上記は認定の際にお話したことですが、その気持ちは今も変わっていません。